

中皮腫・アスベスト疾患・患者と家族の会

提出資料

アスベスト被害の当事者となって…！

塩見 幸治

胸膜中皮腫の発症、そして手術を選択

2014年12月初旬、咳が出始めて「風邪をひいたかな」と思っておりましたが、咳がなかなか収まらず、年が変わっても収まるような気配がないため、かかりつけ医で胸部レントゲンを撮ってもらいました。

すると、右肺に胸水が4分の1ほど溜まっており、胸水の検査が必要ということで、県立尼崎病院（現尼崎総合医療センター）呼吸器内科を紹介され、1月末に検査入院しました。そして、「胸膜中皮腫」と診断されました。

今度は呼吸器外科に移って、2月中旬に内視鏡検査を行いました。その結果、「上皮型と骨肉腫型の2相型の胸膜中皮腫でステージⅡ」と診断されました。「他の疾患がなければ手術は可能」だが、「手術をしても予後はよくないかもしれない」と説明され、担当医師は手術を積極的に勧めることはしませんでした。私自身が手術することを選択しました。そして、手術日が4月8日と決まり、様々な検査が始まりました。

手術は1か月余の延期

ところが、その検査の途中で、身体全身に粟疹がでて「スチーブンスジョンソン症候群」と診断され、皮膚科及び眼科の治療が優先されることとなり、その結果、手術日が5月20日に延期となりました。

手術は、14時間半かかりました。術後の経過は順調とのことでしたが、結局、中皮腫が横隔膜・心膜・神経細胞にも広がっており、結果的には「ステージⅢ」であったことと、手術時間が長かったため、体力の消耗が著しく、手術後退院してからも思うように食事ができない状態が続きました。

1月下旬には5回目の抗がん剤を

7月7日には、右胸部の温熱洗浄と抗がん剤注入の手術もあり、その後も思うように食べられず、点滴と栄養補助食品で過ごす毎日でした。

何とか少量ながら食事ができるようになったのは、お盆を過ぎたころでした。

2014年9月からは、経口抗がん剤UFTと右胸部への抗がん剤注入（5週ごとに5回の予定）が始まりました。

抗がん剤を注入した後は1週間程度しんどい日が続きますが、今では、体力も大分回復し、外食もできるようになりました。

今年1月下旬に、5回目の抗がん剤注入があり、その後、再度、右胸部の温熱洗浄手術が行われる予定となっております。

尾浜町—関西スレートによる「アスベストばく露」か

私は、1951年（昭和26年）3月、常光寺奥ノ坊（皇大神社東）で生まれ、1957年東大物1丁目（県立尾崎病院西）に、そして、1959年（昭和34年）に尾浜に転居し、尾浜の中で住居は変わったものの、今日まで、尾浜町に居住しております。

尾浜に転居した場所は、ちょうど関西スレート工場の西側でした。そして、その頃の周辺の状況は、2005年7月28日の毎日新聞に、「悪夢の遊び場」「舞う石綿マスクもつけず」という見出しで、関西スレート工場で働く労働者の実態や、周辺の子供たちがスレートで遊ぶ状況が報道されておりますが、まさにそういう状況でした。

スレート板が高く野積みされた一角は、子供たちの絶好の遊び場でした。工場では、タオルをほっかぶりした労働者がスレートを製造しており、工場と外部との仕切り（塀など）もなく、工場から常時ほこりが舞い上がり拡散しておりました。

周辺道路には白い粉が堆積し、自転車や車が通ればそれが舞い上がり、雨が降れば、真っ白い雨水で水路が白濁し、^{しづか}庄下川へ流れ込んでおりました。時間遅く尾浜の銭湯に行きますと、湯船のお湯が白く濁っていたことなども、多くの住民が体験していることです。

私のアスベストばく露も、そういう環境下によるものと考えられますが、子供のころ同じような体験をした人たちが多くおられるわけで、私がアスベストばく露による胸膜中皮腫を発症したことで、多くの方が石綿公害による疾病の発症リスクを抱えていることが、改めて認識されるに至りました。

昨年11月28日に、尾浜で「アスベスト学習会」をおこない、そのための案内を私の発症も含めて尾浜地域にお知らせしました。

尾浜には、関西スレートで働いていた方や、胸膜プラークがあり経過観察の方も結構おられます。その人たちといっしょに、アスベスト公害問題についての認識と理解を地域に広げるために、何ができるのか、考えて取り組んでいければ…と思っております。

中皮腫-アスベスト疾患-患者家族の会

尾崎支部「尾りかん」第48号

2016年1月20日発行

尼崎かん

No.12

尼崎市長洲中通 1-7-6

中皮腫・アスベスト疾患

患者と家族の会 尼崎

TEL・FAX 06-4950-6653

AMARIKAN

09.11.20

淡路島

患者さんも7名参加しました



10月17日の淡路島旅行はとても楽しかったですね。次回はどこにしましょう、有馬？赤穂？今回の参加者を上回る人数で元気を分けたいものです。

この間、色々な相談が続いています。1990（H2）年に胸膜中皮腫で亡くなった機関据付工。制度問題による時効救済の再延長で申請が間に合いました。

健康被害による肺がんやじん肺の可能性のあるケース、家庭内曝露と考えられる事例、「石綿健康被害に関する権威ある専門家から構成されている判定小委員会」で「胸膜腫瘍であるという以外の判断はできない」として、石綿救済法不認定とされながら、最終的に中皮腫と認められたケースなど・・・

民主党新政権は〈弱者救済〉に積極的に見えます。私たちも病气や悲しみと向き合いながら、認定疾病の拡大、被害者の確かな生活補償のために一層がんばります。

静岡のアスベスト国家賠償請求訴訟が11月11日結審しました。傍聴・署名など協力ありがとうございました。必勝を期したいと思います。国は責任を認めよ！

○11月例会（どなたでも参加できます）

11/28（土） PM1時半～ 於 事務所

お話し「建築物のアスベストを見逃すな！」

（巴 元尼崎市公害対策課長）

○12月例会 忘年会（もちろんどなたでも参加できます）

12/13（日） PM2時～ 会費3,000円

於 アルカイクホテル（阪神尼崎）22F

「トップオブザクリスタル」

早めに申し込んで下さいね！

世話人： 武澤 泰、平田 忠男、平地 千鶴子、瀬川 雅夫
（事務局： 飯田 浩）

なんでこんな恐ろしい病気に……

栗野 通博 一九五六年生、杭心瀬、常光寺に居住

二〇〇九年四月末、会社の健康診断後現場で作業中の私に、本社から電話があり、「ケリちゃん、すぐ帰ってきて。なんか肺が破れてるみたいやで。レントゲン写真（すでに会社に到着）持って大きな病院行ってきて。」

次の日、妻と県立尼崎病院の呼吸器内科を受診すると、医師は「気胸かもしれませんがゴールドンウィーク明けまで様子を見ましょう。」

ゴールドンウィーク明け再び呼吸器内科へ。X線は変わらず、次の日に呼吸器外科を紹介され、数日後、気胸の手術時に胸腔鏡にて中皮腫が発見されました。（私は全身麻酔、妻だけに病名が告げられ）一週間後、病理組織検査の結果、中皮腫と確定し、妻から病名を聞かされました。

すぐに患者と家族の会尼崎支部へ行き資料をもらい、茫然としながら二週間ほど眠れず食べられず、今でも信じられませんが、「受け入れる」のに時間がかかり、いろんなことを考えました。（病の世界↑健康な世界）

その後、まわりの人たちからも励まされ、とりあえず六月二十四日に右肺と胸膜の摘出手術を受け、七月一日に退院。八月上旬に再び入院して温熱化学療法も受けた後、自宅で療養。

二カ月後、せき、たん、高熱が出て、一〇月二十四日にまた入院しました。洗浄処置のため二ヶ月間の入院生活、やつと二二月二十四日に退院し、クリスマスとお正月は自宅で過ごすことができました。

発病から八カ月が過ぎましたが、いつも思うのは、病（痛さ、つらさ、もとの元気な身体にはもどれない、リ

アルに死と直結している)とともに残りの人生を生きていくということです。なってしまったことは仕方ないですが、言っても仕方ないですが、同じ病気で亡くなられた方も無念でしょう。

私は言いたいです。

「なんでこんな恐ろしい病気にならなあかんねん」と……

(『尼りかんAMARIKAN』〈No.13〉2010年1月)

2011年4月9日、お花見の後、事務所で



WHOが勧めるがんの痛みの治療法

- ① できる限り飲み薬で治療する
- ② 時刻を決めて規則正しく薬を使う
- ③ 痛みの強さと性質に応じて適切な薬を選ぶ
- ④ 患者に応じて痛みの取れる量の薬を使う
- ⑤ 効果と副作用のバランスを取って薬を使う

明日を託せるか

「異変」の現場から

「神戸新聞」2009年8月15日

「いま生きられるか分からない。薬のことを思うと、気がたない」。尾崎由乃のうつろい。尾崎由乃(53)は、時折遠く切れるような声で訴えた。尾崎由乃(53)は、時折遠く切れるような声で訴えた。尾崎由乃(53)は、時折遠く切れるような声で訴えた。

アスベスト禍

男性は馬の約10倍、女性も約5倍、アスベストを扱う仕事は多い。尾崎由乃(53)は、時折遠く切れるような声で訴えた。尾崎由乃(53)は、時折遠く切れるような声で訴えた。

不十分な補償に怒り

青教がどう迎えるか。国は06年3月に石綿健康被害救済法を施行。08年12月の法改正では、救済機関を拡大した。しかし中野・じん肺アスベスト被害者家族の会尾崎支部の飯田事務局長(68)は「労災補償など遺族への補償も少なく、補償という水準にはほど遠い」とする。クボタとの約2ヶ月後に行われた前回の総選では、複数の候補者がア

スベスト問題を地域の課題として訴えた。今回、マニフェストに「給付水準・内容を引き上げること」を掲げた。しかし中野・じん肺アスベスト被害者家族の会尾崎支部の飯田事務局長(68)は「労災補償など遺族への補償も少なく、補償という水準にはほど遠い」とする。クボタとの約2ヶ月後に行われた前回の総選では、複数の候補者がア

現在、救済に基づき認定申請している。男性の妻は「石綿の危険性に気付いていながら早い段階で規制しなかった国の責任は重い。選挙では、補償問題を真剣に考えられる人が選ばれてほしい」と訴える。飯田事務局長は「阪神間、特に8区(尾崎市)では選けて通れない課題。地域の代表として、候補は声をあげてほしい」と強調した。(岡西篤志)



石綿を全摘出した夫を気遣う妻。「国は生活でできるだけの補償を」。切実な思いを1票に託す尾崎市内

被害者たちの声

夫の発病で心労過労ストレス

北島 武子



河童さん

10月17日のバス旅行はお天気に恵まれ、皆さまとの会話を楽しみながら、柳田國男記念館では昔懐かしい田舎の家を思い出し、近くにある河童の出る池で笑い、好古園での素晴らしい庭園を眺めて、久しぶりに病気を忘れてのんびりと一日を過ごさせていただきました。お世話をしてくださった皆様に感謝しています。

私の夫も郵政^{すみだ}角田寮

“中皮腫”この聞きなれない病気を耳にしたのは、22年前でした。

11月の中頃、主人から「肺に影があると会社の健康診断で言われ、市民病院で再検査したら、肺結核かもしれないので、豊中の肺専門の刀根山病院を紹介された。結核だったら3ヶ月は入院しなくてはいけないらしい」と言われ、いまだき結核？とビックリしました。

すぐ入院しても検査、検査で治療する気配がなく、本人はいたって元気で、検査のない時は家に帰ってきたり仕事をしたりと病人らしくなくて、私もまさか死に到る病気などとは予測もしていませんでした。

3ヶ月過ぎても治療をしないのでだんだん不安になってきた矢先、主治医の先生から「実は“胸膜中皮腫”と言う病気はこの病院では治療も手術もできませんので、京都大学の胸部疾患研究所に紹介します」と宣告され頭の中が真っ白になりました。

それから1カ月後の1993年（平成5年）4月左肺を全摘出しましたが、3年の宣告をされ、その後温熱治療もしていただきましたが、1回目の治療中に倒れ、中止になり薬のみの治療で4年後の1997年（平成9年）1月に56歳で亡くなりました。

主治医の先生から以前どこで生活していましたか？と聞かれ、結婚するまで尼崎の郵政宿舎（浜字角田、クボタの北向かい）にいたので漠然と「公害による病気かな～」、でも、「尼崎にいたのは30年前の事だし～」と思うくらいで、それ以上考えたり、調べたりする余裕が当時の私にはありませんでした。

中皮腫・3スベス疾患者・患者・家族の会
尼崎支部発行「尼りかん」
第47号(2015.11.20)

私も働けなくなった

それから8年後、アスベストの環境ばく露を伝えるニュースをテレビで見てこれだと思い、子供時代同じ場所で育って同じ場所で亡くなった平田彰さんの御家族にお電話して、お兄さんの忠男さんと二人で関西労働者安全センターを訪ねました。

それからはお世話してくださった古川現会長、関西安全センターの片岡さん、尼崎安全センターの飯田さん、最初の証言者3人の患者さんを中心にクボタとの話し合いに参加、『クボタショック』としてマスコミ報道され、皆さまのご尽力で被害者の補償と救済に繋がりました。私自身主人の発病以来の心労過労ストレスで潰瘍性大腸炎（難病指定）にかかり入退院を繰り返し、働けなくなりクボタの救済金には正直、助かっております。

新薬の治験が始まったとのことで、皆さんの希望と祈りがすぐそこまで来ていると思います。



白く美しい姫路城

患者と家族の会 事務局 さま

いつもお世話になります。

118号会報に4月20日から、石綿救済法の見直し議論があるということで、何もお役に立ちませんが、中皮腫と戦っている夫の日常をお話しして、何か議論に反映できるヒントにでもなればと思い書きました。

昨年6月に病名が決まり、延命治療だけですよと言われ、入退院をしながら4回の抗がん剤治療をしました。その間に救済申請をし、今は月額10万円ほどの給付を受けております。給付が始まったころは、思いもよらないことに、これで病人に充分なことができると思っていました。だが、4回の抗がん剤治療の後、外来で3週間に一度の抗がん剤をすることになると、治療の後2週間ほどは吐き気やめまいや食欲不振になり、体力が無くなり、とにかく食べさせなければと病人の口にできるものを買えば、想像以上の食費が嵩むことになりました。

通院には毎回タクシーしか方法がなく、交通費もかなりの出費です。

常に寒さを訴えていましたが、冬に向かって行くにつれ健常者にはわからないほどの寒気を訴え、家にあるエアコン、電気ストーブ、床カーペットと暖房器具はフル回転で、食費に加えて光熱費もかさんでいます。

抗がん剤の影響かどうかわかりませんが、泌尿のため昼夜たがわず、二時間お

きにトイレに行くので、泌尿器科の受診や視力も急激に落ちて眼科の通院、メガネの買い替え、また体力が落ちたことによる带状疱疹で1週間の入院と、中皮腫による弊害と思われる病気が次々起こり、その度に医療費や家族の交通費など想像をしていなかった出費が続いています。

初めは有難く思っていた救済費でしたが、1か月の10万はすぐになくなり、蓄えから補てんが続き、今また新たな定期を解約しなければならないというのが現状です。労災並みの支給があれば生活が少しは楽になるのではないかと、思うこの頃です。頭で考えるより実際は思いもよらないほどの出費がいるものだと経験をして感じています。

日常をありのままに書いてみましたが、どなたも経験しておられることばかりかもしれませんので、お役には立たないかもしれませんね。夫は今アリムタの効き目が無くなり、あまり効果がないと言われている抗がん剤を試してみるの
が良いか、緩和治療が良いか迷っている所です。緩和治療と聞いた時は、残された時間が僅かなように思えました。もう少し体力をつけて、本人はもう一度抗がん剤治療を試してみたいようです。会報に「今年も春がやってきた」の中皮腫7年生の さんのような明るい話題は夢を貰えて、こちらも希望が出てきます。